

28. 網膜中心動脈閉塞症の視力予後の検討—高圧酸素療法の適応について—

須藤 亮*¹⁾ 渡辺久志*²⁾ 守田敏洋*¹⁾
木谷泰治*¹⁾ 藤田達士*¹⁾

(^{*1)}群馬大学医学部麻酔蘇生科 (^{*2)}群馬大学医学部高気圧酸素室)

網膜中心動脈閉塞症 (CRAO) は、高圧酸素療法 (OHP) の救急的適応疾患である。CRAO に対する OHP の治療効果を検討し若干の知見を得たので報告する。

【対象と方法】1988年11月より1993年1月まで群馬大眼科において CRAO と診断された22例を対象とした。このうち12例は当科受診当日より SGB, OHP を開始した。他の10例は薬物投与のみで経過観察されたものである。視力は以下のように10段階に分けて点数化し、初診時と最終視力の差が2点以上だったものを改善例 (A群)、その他を非改善例 (B群) とした。1点：無光覚弁, 2点：光覚弁, 3点：手動弁, 4点：指数弁以上0.1未満, 5点：0.1以上0.3未満, 6点：0.3以上0.5未満, 7点：0.5以上0.7未満, 8点：0.7以上0.9未満, 9点：0.9以上1.2未満, 10点：1.2以上

【結果】22例中A群8例, B群14例であった。両群間に年齢, 性別, 発症から受診までの時間に有意差を認めなかった。初診時視力点数 (A群：4.75±1.28, B群：3.28±0.83; $p < 0.05$) はA群で有意に高かった。

【考察】今回の症例では、初診時視力点数が5点以上では全例A群であったが、4点以下ではA群が2例, B群が13例でありほとんど視力回復が期待できないことがわかった。また、初診時の眼底所見で強度混濁例14例中13例はB群であり、一方軟性白斑の認められたものは全例A群であった。初診時視力点数が4点以下で眼底強度混濁の場合、予後不良であり OHP, SGB の適応もないと考えられる。今回の症例では OHP, SGB 実施例の初診時視力が極めて悪い例に偏っており、初診時視力のよい例における OHP の効果判定が今後必要である。

29. 小児, 特に, 新生児患児に対する HBO の適応と PaO₂ の動態

江東孝夫*¹⁾ 真家雅彦*¹⁾ 村松俊範*¹⁾
岡田忠雄*¹⁾ 佐々木章*²⁾ 坂元英雄*²⁾

(^{*1)}千葉県こども病院外科 (^{*2)} 同 ME)

【目的】新生児の高濃度酸素吸入は、酸素中毒を来す恐れがあるため、出来るだけ避けるべきである。新生児期の術前, 術後に, HBO 治療を余儀なくされた新生児の HBO 中の血中酸素濃度動態およびその適応について検討した。

【対象および結果】対象疾患は腹壁破裂, 軸捻転を伴った腸回転異常症のそれぞれ2例, 計4例である。生下時体重は、未熟児1例 (1832gr), 成熟児3例で、いずれも、新生児期に緊急手術を要した症例である。HBO は、腹壁破裂は2例共、術後イレウスの併発に対し、軸捻転を伴った腸回転異常症の2例は、いずれも開腹時捻転による広範囲腸管の高度の循環障害を伴っていた為、一端閉腹し、人工呼吸器を装着したまま、即時に HBO を施行した。採血は A-line より動脈採血した。HBO 治療プログラムは、維持圧 2ATA, 45分, 加圧, 減圧をそれぞれ、15分とした。PaO₂ は、開始前、85.5~100mmHg で、流入酸素濃度 60%, 60分で、441.4~581.7mmHg であった。又、100%, 60分では、931.1~992mmHg と、大気圧時より、高い PaO₂ を示した。特に、循環障害を呈した、軸捻転を伴った腸回転異常症の1例は HBO により、大量腸切除を免れ、HBO の効果は大であった。HBO 治療後、眼底検査では、いずれの症例も網膜症等の異常は見られなかった。

【結論】未熟児1例を含む新生児4例に、高濃度酸素による HBO を施行した。いずれの症例にも HBO 中、高い PaO₂ が得られ、HBO の効果が示された。又、網膜症等の異常は見られなかった。HBO は、新生児の術後イレウス, 循環障害を呈した軸捻転を伴った腸回転異常症等に有用な治療法であることが示唆された。